

全国青年委員長会議報告

報告件名	平成 24 年度全国青年委員長会議
報告者	斎藤 勝哉
開催日時	平成 25 年 3 月 9 日 13:00～18:00 10 日 9:30～12:00
開催場所	1 日目 アットビジネスセンター東京駅八重洲通り 2 日目 東京都立産業貿易センター（浜松町館）
出席者	斎藤副委員長、松本委員（札幌支部青年委員長）、針ヶ谷委員長（連合会委員）

報 告 内 容

平成 24 年度全国青年委員長会議プログラム

「建築士会 会員としての誇り」

○挨拶

(公社) 日本建築士会連合会青年委員長 関 伸行 氏

会員減少の止まらない中、士会の魅力をどうやって伝えていくか。
入会当初の思いを振り返り、問題点を洗い出し、対策（対応）を考え
持ち帰り実践する。 結果を全国大会（交流セッション）にて報告・発表する。

(公社) 日本建築士会連合会 副会長 衛藤 照夫 氏

衛藤氏は連合会青年委員会発足当時のメンバーであり、第一回の委員長会議から掲げている
「熱き想い」「熱き血潮」の言葉の解説をいただいた。そこでは、真実を語ることの重要性や、
トップダウンではなく横で連携することによって発揮されるリーダーシップにより、皆で一丸
となって推し進めることこそ青年の姿であると話された。

○基調講演 「建築士会にあってないもの」

(社) 大阪府建築士会 会長 岡本 森廣 氏

- ・大阪府では会員が半減していて、特に若年層の減少が著しい。
- ・会の改革が必要。
- ・青年、女性委員の活動を確立→金は出すが口は出さないが望ましい。
- ・20～30 年後を見据え、会員を集め人材を育成したい。

これらの問題点等を話されたうえで、一昨年の震災による全国大会の中止が会の改革を促進させる
きっかけとなった。改革にあたっての大阪府会の財産として①人材が充実している。②60 年の歴史が
ある③公的機関との関係が強い と挙げられた。さらに、(連合会、大阪府会共に) 事務局が優秀である
と前置きし、優秀だからこそ新しいことに消極的であり、「金がない」「時間がない」「人がいない」
「リスクが…」と並べることを批判。岡本氏は少しでも『利』があれば進めるべきであるとおっしゃ
られた。その他は以下のような話をたくさんしておられました。

- ・連合会はなぜ必要か？→国、政府、他団体、外国等と連携や対話が取れるようにあると思う
- ・パブリックコメントを積極的に書き込んでほしい→意見を直接言える機会であるから
- ・我々（建築士）の仕事とは
→施主、行政、施工者、金融等携わる人すべての関係をデザインすることである
- ・近畿建築士会協議会青年部会（近建青）の活動の紹介
→各種講習、セミナーの開催 若手建築家、医療介護分野（バリアフリー等）
メーカー（クレームやトラブルの情報）等を企画している。

最後に、「これからを作るのはあなたたち（青年）である。」と締めくくられた。

○ワークショップ

テーマ「建築士会はどうしたら盛り上げられるか ～会員拡大・建築士会周知～」

ワールドカフェ方式にて議題ごとに席替えが行われた。

【協議1】

入会当初の思い、なぜ入会したか、入会して何をしたかったか

なぜ入会したか

- ・独立するに当り、人脈・情報が欲しかった。
- ・上司、先輩に半強制的に入れられた。
- ・建築士なんだから入るものなんだと思っていた。

入会当初の思い、入会して何をしたかったか

実際に活動に賛同してとか、「これがやりたい」といったものはなかったようです。
具体的な活動を知って入会している人はほとんどいない感じでした。

【協議2】

現況の問題点、建築士会に対する不満、なぜ未入会者が入会しないのか

現況の問題点、建築士会への不満

- ・予算が少ない
- ・人がいない
- ・新しい活動をやりにくい（親会の承認が必要だったりする）
- ・予算の使い方が厳しい（使い道がガチガチに決まっている）

なぜ未入会者が入会しないのか

- ・メリットがない
- ・入っても意味がないといわれた
- ・会社に禁止されている
- ・会費が高い
- ・大手ハウスメーカーでは社内だけで完結しているのではないか？

【協議3】

まとめ こういうことが大事、こうしたら出来る → 別紙

○連合会活動報告

第3回全国建築士フォーラムいばらき 報告

第55回全国大会交流セッション① 報告

地域実践活動アワード

連合会会長賞

兵庫県建築士会

【街づくり貢献活動 人・街・文化・歴史の絆】

茨城県建築士会会長賞

三重県建築士会

【おうちをつくろう】

○全国大会島根大会PR

○第4回全国建築士フォーラム in 島根 案内

第56回全国大会島根大会セッション 案内

【協議4】

目標設定 持ち帰ってどんなことをしてみたいか、していききたいか →別紙

全国青年委員長会議報告 別紙

【協議3】

まとめ こういうことが大事、こうしたら出来る。

- ・入会したくなるようなメリット、特典があればいい。
- ・異業種との連携や、女性を講師とした講座、セミナー等を開催してほしい。(女子力の取り込みと表現)
→インテリアコーディネーター、医療介護分野、メーカー等
- ・店舗、施設等での割引特典(東京、長野などでは実施しているところもある)
- ・民間確認検査機関での割り引き、割り込み等の優遇があったらいいな。
- ・大胆な制度の制定が必要なのでは?
→CPDや専攻建築士のメリットが特定のものにしか受けられない。
例えば、定期講習を全建築士に義務化して、CPDの得点で講習時間の軽減や免除を設けるとか。
会員しか受けられない講習を受けると金利優遇が受けられるとか。

【協議4】

目標設定 持ち帰ってどんなことをしてみたいか、していきたいか

- ・士会ピンバッジを普段から身につける。(近畿ではじめている運動)
- ・日常的に使えるツール(ポストカード等)を作る。
→封筒、年賀状等に士会マークを入れて会員アピールをする等。
- ・SNS(Facebook等)を活用。
- ・女性が参加しやすい環境を作る。
- ・青年会議所、商工会議所、医師会等異業種との交流。
- ・講座、セミナー、勉強会等の開催。
→CG、写真、FP等実務から一歩進んだ知識を吸収する。
- ・他都府県での成功事例
免許証授与式～新規セミナー～祝賀会
→勧誘の機会をつくり、フォローアップを欠かさない。
香川県では80名合格→セミナー参加者51名→入会者25名
神奈川県、徳島県等でも効果が出ている。